

# ソフトバンクグループの「AIエージェント10億整備」計画：新たなデジタル変革の全貌

ソフトバンクグループの孫正義会長兼社長が2025年7月16日に発表した「AIエージェント10億整備」計画は、企業のデジタル変革における革命的な転換点を示している。この壮大な構想は、従来の生成AIを超越し、自律的に業務を遂行するAIエージェントを年内に10億体整備するという前例のない規模の取り組みである。本レポートでは、この計画の技術的基盤、実現可能性、そして産業界に与える影響について詳細に分析する。

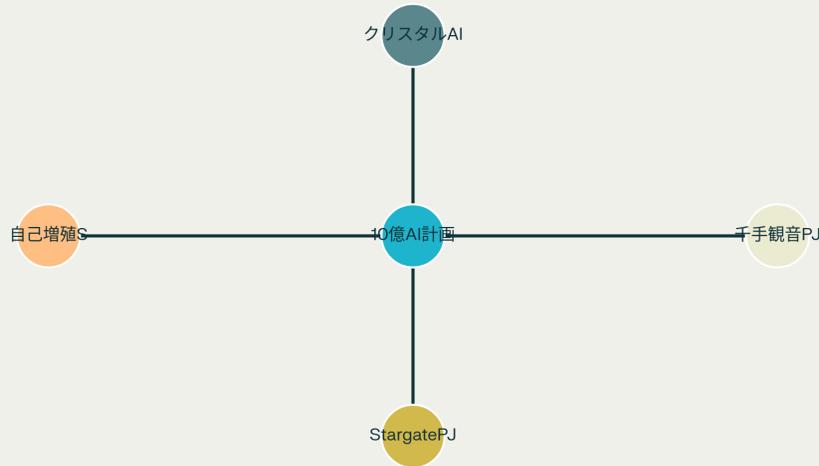
## 計画の全体構造と核心技術

### 「千手観音プロジェクト」の概要

孫正義氏が提唱する「千手観音プロジェクト」は、社員1人あたり1000のAIエージェントを配置し、従業員を「スーパーヒューマン」に進化させる構想である<sup>[1] [2] [3]</sup>。この計画は、従来のAIアシスタントの概念を根本的に覆し、AIが人間の指示を待つ受動的な存在から、自律的に判断し行動する能動的な存在へと転換させることを目指している。

同社の発表によると、これらのAIエージェントは人事、財務、営業、ネットワーク管理などの業務を24時間365日体制で補完し、社員は戦略的な意思決定やクリエイティブな業務に集中できるようになる<sup>[4] [3]</sup>。この変革により、従来の労働形態が根本的に変化し、人間とAIの協調による新しい働き方が確立される。

## SBG 10B AI plan flow



ソフトバンクグループの10億AIエージェント計画の全体構造

### 自己増殖・自己進化システムの技術基盤

本計画の最も革新的な側面は、AIエージェントが自らAIエージェントを生成する「自己増殖」機能である<sup>[5] [3] [6]</sup>。このシステムは、社内の会議やプロジェクトの進捗データを基に、AIエージェントが自律的に学習し、新たなタスクを解決するために必要な学習メカニズムを自身で設定する仕組みを持つ。

孫氏は、この自己増殖・自己進化の技術について独自の特許を出願しており<sup>[3] [6]</sup>、これによりAIエージェントの大量生産が可能になると説明している。具体的には、エージェント同士が相互に学習し、協調して業務を遂行する「エージェントOS」の開発も進められている<sup>[6] [7]</sup>。

### 技術的基盤と戦略的パートナーシップ

#### クリスタル・インテリジェンスとOpenAI協業

この計画の技術的基盤となるのが、OpenAIとの戦略的パートナーシップによる「クリスタル・インテリジェンス」である<sup>[8] [9] [10]</sup>。これは、企業の全システムとデータを安全に統合し、各企業専用のカスタマイズされた企業向け最先端AIシステムである。

クリスタル・インテリジェンスの特徴として、企業の長年にわたる基幹システムの複雑なソースコードを全て解析し、プログラムの意図や機能を理解した上で、最新のプログラミング言語への置き換えやバージョンアップを行う機能を持つ<sup>[9] [10]</sup>。また、企業内の全会議に参加し、過去の議事録や業務メール、システム仕様書を参照して意思決定を支援する機能も備えている。

## Stargate Projectとインフラ整備

計画の実現を支えるのが、OpenAIとの共同で進める「Stargate Project」である<sup>[11] [12] [13]</sup>。これは、今後4年間で5000億ドル（約77兆円）を投資し、米国内にAIインフラを構築する超大規模プロジェクトであり、初期段階では1000億ドルの投資が予定されている。

孫氏は、AIの演算能力が1年半で1000倍に進化するという「Stargateの法則」を提唱しており<sup>[4]</sup><sup>[14]</sup>、この法則に基づけば、3サイクルで10億倍の性能進化が可能になると説明している。この指数関数的な性能向上により、従来では不可能だった大規模なAIエージェントシステムの実現が可能になる。

## 実用化事例と具体的な取り組み

### X-Ghostによる先行実装

ソフトバンクグループの子会社Gen-AXが開発した「X-Ghost（クロスゴースト）」は、この計画の先行実装例である<sup>[15] [16]</sup>。これは、コンタクトセンターにおける自律思考型AIの音声対応ソリューションで、三井住友カードが先行導入を予定している。

X-Ghostの特徴として、人間らしい自然な音声対話によるスムーズな顧客対応の実現、深い業務知識に基づく業務構造の分析・データ化、そしてLLM Opsの仕組みによるAIの自律的な学習・進化機能がある<sup>[15]</sup>。三井住友カードでは、年間600万件の問い合わせのうち、3年後には過半数をAIオペレーターが対応することを目標としている。

### 圧倒的なコストパフォーマンスの実現

孫氏の発表によると、AIエージェントの生産性は人間の4倍でありながら、年間コストは450円と人間の1万6000分の1に過ぎない<sup>[2] [14]</sup>。この結果、30万倍のコストパフォーマンスが実現されると試算されている。



AIエージェントと人間労働者のコストパフォーマンス比較

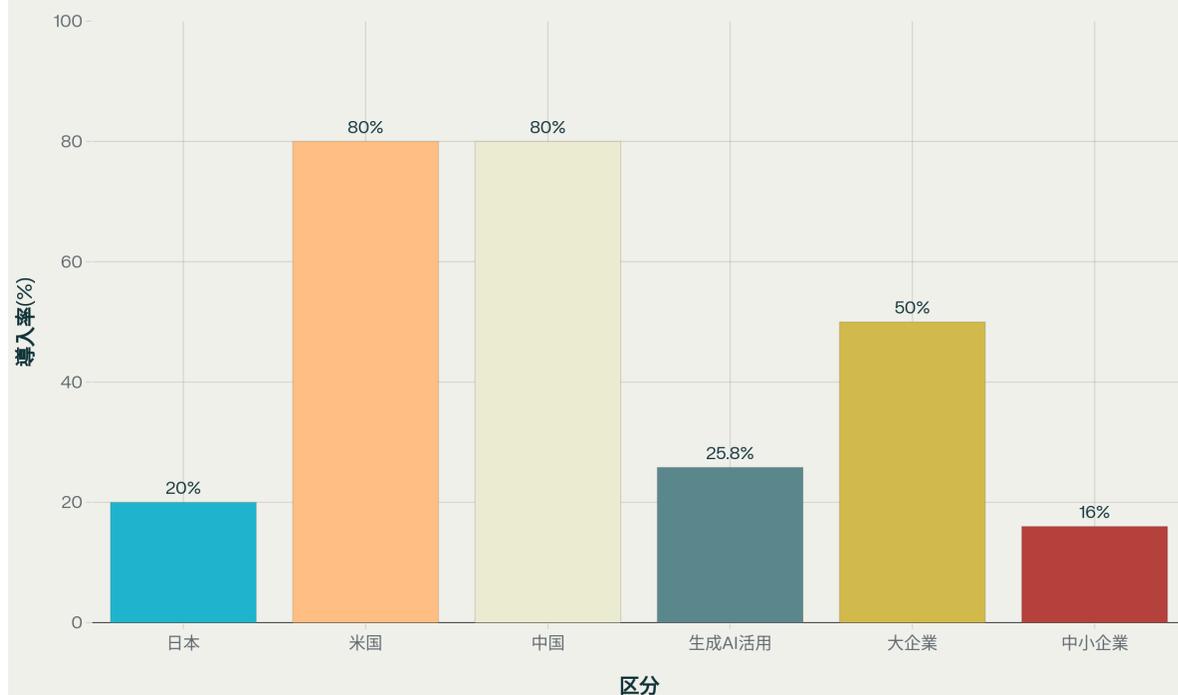
## 日本のAI導入状況と課題

### 国際比較における日本の遅れ

孫氏は講演で、日本のAI導入が米国や中国に比べて大幅に遅れていることを指摘した<sup>[2]</sup><sup>[17]</sup><sup>[18]</sup>。具体的には、米国や中国では8割以上の企業がAIを使用しているのに対し、日本は2割程度にとどまっている<sup>[2]</sup><sup>[19]</sup>。

日本企業のAI導入率は約13~27%で、生成AIに限ると約25.8%の企業が全社的または一部部署で活用している<sup>[20]</sup><sup>[21]</sup>。一方、米国企業のAI導入率は約73.5%、オーストラリアは約66.2%と、日本との差は顕著である。

## AI導入状況の比較



日本のAI導入状況と他国との比較

### 企業規模による格差

日本国内では、企業規模による導入格差も深刻である。1万人以上の大企業では約50%が導入済みである一方、1000人未満の企業では16%しか導入していない<sup>[20] [21]</sup>。この格差は、AI活用における「デジタルデバインド」を示しており、中小企業のAI導入支援が急務となっている。

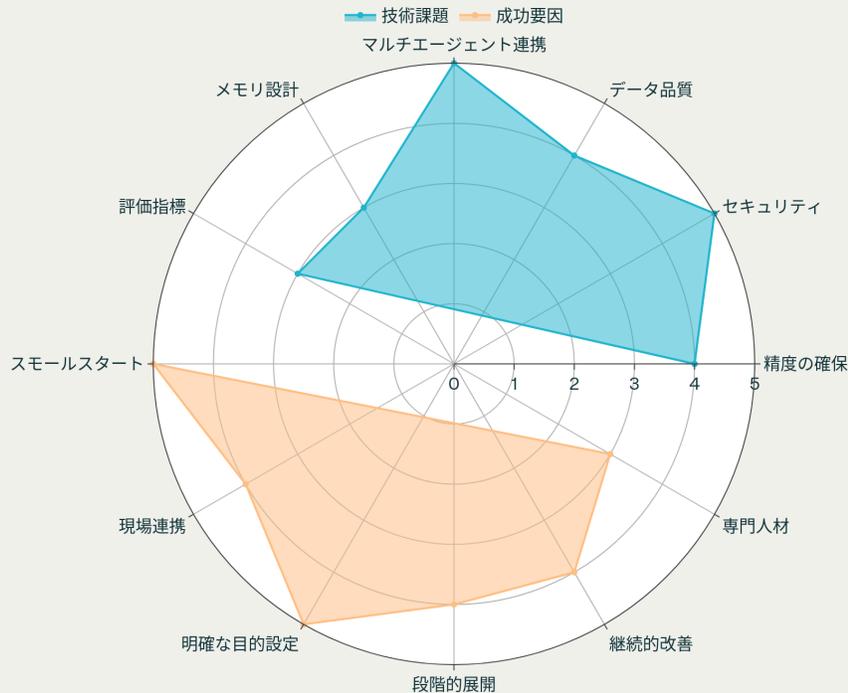
### 技術的課題と実現可能性

#### 主要な技術課題

AIエージェントの大規模導入には、複数の技術的課題が存在する。精度の確保、セキュリティ対策、データ品質の維持、マルチエージェント連携、メモリ設計、評価指標の設定などが主要な課題として挙げられる<sup>[22] [23] [24]</sup>。

特に、複数のAIエージェントを直列的に連携させることによる精度の低下は重要な懸念事項である<sup>[22]</sup>。LLMの出力が確率的である以上、エージェント同士の処理の受け渡しで「かけ算的に精度が下がる」リスクが存在する。

## AI導入課題・成功要因



### AIエージェント導入における技術課題と成功要因の分析

#### 成功要因と対策

AIエージェント導入の成功要因として、スモールスタートによる段階的導入、現場との密接な連携、明確な目的設定、継続的な改善プロセス、専門人材の確保などが重要である [25] [26] [27]。

ソフトバンクグループでは、これらの課題に対処するため、SB OpenAI Japanに1000人体制の専任組織を設置し、導入支援体制を構築する計画を発表している [10]。

#### 産業界への影響と将来展望

##### 労働市場への影響

「脱プログラミング」宣言に象徴されるように、この計画は既存の労働市場に大きな影響を与える可能性がある [6] [28]。孫氏は「人間がプログラムする時代は終わる」と述べ、リサーチ、交渉、プログラミングといった業務をAIエージェントに置き換える方針を示している。

ソフトバンクグループ内では、最終的に社員によるプログラミング作業をなくすことを目指しており、AIによるプログラミングの代替率を30%、50%、100%と段階的に増加させる計画を発表している [6]。

## 競争環境の変化

この計画は、AI技術の競争環境にも大きな影響を与える。Microsoft、Google、Amazonなどの大手テクノロジー企業も、AIエージェント市場での覇権争いを繰り広げており<sup>[29] [30] [31]</sup>、ソフトバンクグループの取り組みは、この競争をさらに激化させる要因となる。

特に、OpenAIとの戦略的パートナーシップにより、ソフトバンクグループは年間30億ドル（約4500億円）を支払い、全グループ企業にOpenAIソリューションを展開する計画を発表している<sup>[8] [32]</sup>。

## 結論

ソフトバンクグループの「AIエージェント10億整備」計画は、AI技術の実用化において画期的な転換点を示している。自己増殖・自己進化システム、千手観音プロジェクト、クリスタル・インテリジェンス、Stargate Projectという四つの柱により、従来の企業運営モデルを根本的に変革する可能性を秘めている。

しかし、この壮大な計画の実現には、技術的課題の克服、セキュリティ対策の強化、人材育成の推進、そして社会的受容性の確保など、多くの課題が残されている。特に、日本のAI導入率の低さや企業規模による格差を考慮すると、この計画の成功は、日本全体のデジタル変革を加速させる重要な契機となる可能性がある。

孫氏の「AIの限界が見えたのではなく、あなたの理解の限界を超えた」という発言は、AI技術の可能性に対する新たな視点を提供している<sup>[1] [12] [14]</sup>。この計画の成否は、AI時代における企業競争力の決定要因となり、日本の産業界全体に長期的な影響を与えることが予想される。

✻

1. <https://www.youtube.com/watch?v=qPbMqxOYDag>
2. <https://news.yahoo.co.jp/articles/f2e8776949be579209e055aea2bcad1271cc9468>
3. <https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/2031719.html>
4. <https://japan.storm.mg/articles/1053072>
5. <https://www.youtube.com/watch?v=PgbBZ0nwM7Q>
6. <https://www.itmedia.co.jp/aipius/articles/2507/16/news099.html>
7. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03093/060900004/>
8. [https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2025/20250203\\_01/](https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2025/20250203_01/)
9. [https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20250204\\_02](https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20250204_02)
10. <https://ai.softbank/insights/005/>
11. <https://group.softbank/news/press/20250122>
12. <https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/1656345.html>
13. <https://openai.com/ja-JP/index/announcing-the-stargate-project/>
14. <https://news.yahoo.co.jp/articles/50101507c7867cd7ecb935bfb2c3a8118913cf80>
15. <https://www.gen-ax.co.jp/news/20250716-01/>
16. <https://www.nikkei.com/nkd/company/article/?DisplayType=1&ng=DGXZQOUC168PJ0W5A710C200000&scode=9984>

17. <https://jp.reuters.com/business/BN26BSH7K5NMJGQWMBJ4PR7DRY-2025-07-16/>
18. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC154XU0V10C25A7000000/>
19. <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/withbloomberg/2050008?display=1>
20. <https://note.com/nahouemura/n/n90b1f3ee1c80>
21. [https://aismiley.co.jp/ai\\_news/ai-adoption-status-and-use-cases-in-japan/](https://aismiley.co.jp/ai_news/ai-adoption-status-and-use-cases-in-japan/)
22. <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03206/052200005/>
23. [https://note.com/shimada\\_g/n/n3766c7c345a5](https://note.com/shimada_g/n/n3766c7c345a5)
24. <https://dxpo.jp/college/system/aiagent.html>
25. <https://nocoderi.co.jp/2025/04/03/aiエージェント導入のよくある失敗例とその対策 |/>
26. [https://note.com/life\\_to\\_ai/n/na279e8bf8501](https://note.com/life_to_ai/n/na279e8bf8501)
27. [https://note.com/tasty\\_dunlin998/n/ncf171b14c860](https://note.com/tasty_dunlin998/n/ncf171b14c860)
28. <https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2507/16/news088.html>
29. <https://arpable.com/artificial-intelligence/next-generation-ai-competition/>
30. [https://note.com/no\\_cato\\_no\\_sase/n/n13f697e1bb8f](https://note.com/no_cato_no_sase/n/n13f697e1bb8f)
31. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC199S90Z10C25A5000000/>
32. [https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP686328\\_T00C25A2000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP686328_T00C25A2000000/)